

## 1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山県立津山商業高等学校		
実践者等	中塚雄祐	実践日	令和3年11月29,30日
実践場面	数学・数学I		
対象生徒（学年等）	地域ビジネス科 2年		
単元名	データの分析「データの相関」		
使用したアプリ等	Classroom、Forms、スプレッドシート、Meet		
実践の概要（ねらい等）	教科書や一般的なデータではなく、クラスの生徒に実施するアンケートのデータをもとに分析することで、主体的に参加する姿勢を促す。また、数学的論拠に基づいて判断する力や、相関関係が必ずしも因果関係につながらないという注意を喚起し、科学的・批判的に見ることが出来る態度を育成する。		
実践の内容			
～前時までに散布図、相関関係、相関係数について学習している～			
<b>第1時</b> (25分)			
(1) 「正の相関」「負の相関」「相関がない」と思われる2項目について予想させる。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個人</li> <li>② 4人グループになり、個人で考えたものを共有した後、その中で最も強い相関関係がありそうなものについて、その理由とともにグループで決めさせる。</li> </ul>			
※ 調査対象はクラスの生徒40名			
※ 項目は数値で答えられないものや、回答者によって基準が異なるもの（手の大きさなど）、回答者が不快に感じるものを挙げる場合があるので注意する。			
<b>家庭にて</b>			
(2) 各グループが挙げた項目について、ClassroomとFormsを利用して回答させる。			
<b>第2時</b> (50分)			
(3) スプレッドシートを活用して、散布図（挿入>グラフ）と相関係数(CORREL関数)を求める方法について説明する。			
(4) 回答結果が整理されたスプレッドシートを共有設定し、グループで考えた「正の相関」「負の相関」「相関がない」のそれぞれの2項目について、スプレッドシートで散布図と相関係数を求めさせ、予想と比較させる。			
(5) いくつかのグループを指名し、分析結果を発表させる。発表を聞いているグループは「想像通りのもの」と「意外性のあったもの」に分類しながら、整理させる。 ※散布図はMeetの画面共有を利用して提示させる。			
(6) 「意外性のあったもの」を例に挙げながら、因果関係や疑似相関について簡単に触れ、結果を批判的に見る大切さについても伝える。			
(7) 本時のまとめと振り返りをする。			
参考となるHP等			

